

Title	鹿児島方言話者のスタイル切換え
Author(s)	船木, 礼子
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2003, 5, p. 42-63
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23227
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

鹿兒島方言話者のスタイル切換え

船木 礼子

1. 調査の概要

1.1. インフォーマント情報

〔表1〕

	年齢 ^{*1}	職業	居住歴
SA	75	農業	0-18,19-: 鹿兒島県日置郡松元町 18-19: 朝鮮(兵役)
SC	68	農業	0-: 鹿兒島県日置郡松元町
YA	20	学生	0-: 鹿兒島県日置郡松元町
YC	21	学生	0-: 鹿兒島県川内市
YF ^{*2}	26	学生	0-18: 山口県熊毛郡田布施町 18-: 京都市

*1 いずれも調査時(2000年3月下旬)の年齢。

*2 調査者 YF は鹿兒島方言が全く話せない。

1.2. 談話情報

〔表2〕

	話者	話者間の関係	収録時間	談話の展開
老-老	SA-SC	親戚	18分	SCの発話が多い
老-若	SA-YA	祖父と孫	15分	主としてYAが質問、SAが答える
老-調	SA-YF	初対面	26分	YFとFが質問、SAとSCが答える
若-若	YA-YC	親友	32分	ほぼ同量の発話
若-調	YA-YF	初対面	30分	YFが質問、YAが答える

〔老-老〕、〔老-若〕、〔老-調〕にはSAの妻のSWとYAの指導教官のFが同席した。これらの談話の収録も40分程度行ったが、本稿では同席者SW・Fが積極的に談話に参加した部分を分析対象から外したため、〔表2〕の「収録時間」が短くなっている。なお、同席者情報は〔表2〕、分析対象箇所の詳細は〔表2'〕として稿末に添付しているので、参照されたい。

2. 結果および考察

2.1. 自称詞

2.1.1. 結果(〔表3〕は次頁)

- (1) SAは標準語形式ワタン・ワタクシを《対調》に、方言形式アタを《対老》に専用し、オイは《対老》と《対若》に用いている。
- (2) YAはボクを《対調》に、オレを《対若》に、ほぼカテゴリカルに使用している。
- (3) SAはボクとオレ(オエ)を《対老》で1例ずつ使用している。

[1]

067SA:そーゆふーになっちょつどやなー今 へーそーな(へーそーな はつぶやくように)そらもー ちょー
 どんおんなじやっでー はたえもな くるこーして {咳払いしながら}あるいは 僕は水槽がでくつたち
 ゆーんでやなー [老-老]

[2]

046SC:そん ===[人名]どんせやがい この下にこー暗渠いれないかんのいれちよらんわけよ
 →047SA:おえあ[おれは] はいっちょつたでなー [老-老]

[表3 自称詞]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ワタシ・ワタクシ	-	-	2	-	-	-
アタ	2	-	-	-	-	-
ボク*1	1	-	-	2	-	45
オレ*2	1	-	-	33	-	-
オイ*3	3	11	-	-*4	-	-
ジーチャン	-	2	-			

*1 ボー、ボウ、ボッを含む。

*2 オエ、オェ、複数オレラを含む。

*3 オー、複数オイドンを含む。

*4 参考：YC はオイを2例使用している。

2.1.2. 解釈

(a) 結果 (1) から、まず①初対面で大学関係者である YF や F と親族である SC や YA との間に、親疎、ウチソト、あるいは改まりのちがいがいなどによるスタイル切換えの軸があり、さらにこれと重なりながら②《対老》と《対若》の間に親しい当該方言話者であっても老年層か若年層かによって行われる切換えがあると考えられる。

(b) YA は自称詞オイ、対称詞ワイを使用しておらず、以下の [3] のように分析対象外の談話でも使わないとコメントしている。ただし、[4] [5] のように YC は2例ほど使用しているので、若年層における方言形式の自称詞・対称詞の使用には個人差があるといえる。

[3]

→339YA:うん 自分のことも おいってゆわないし

340SW:僕ってゆー**ねー(F:うん うん)

341SA:おいやちいわんとや

342YA:うん

343SA:んー おや わやちー

→344YA:ゆわんゆわん(SA:んー)ん 長崎の人は ゆー いまだに [老-若]

[4]

730YC: おい 酒粕まん喰ったけどねー (YA:うん) 全然おいしくなかった てか いまだのやつ 売ってないんだって [若-若]

[5]

776YC: 幅が狭かったからさー (YA:うん) おいの足幅が広いから 先は余っても てか いの買わないのだめや [若-若]

(c) YA は [6] [7] のように《対若》で 2 例だけボクを使用している。[6] については「クラウドの人」に対する発言の直接引用とも解釈できるが、どちらもはっきりとした発音で、間投助詞のあるいはフィラー的な機能ももっているように思われる。また発話内容から、YA がややかしこまって「良い」自分を演出しているためにボクが用いられたとも考えられる。

[6]

208YA: あー なんやクラブ クラウドの人にゆったわけよ ぼー[ぼく] 入れて下さいっていったら なんか休みと給料は要らなければいつでもどぞーってゆわれた [若-若]

[7]

606YC: たくさん兄弟のいる あれ

→607YA: いや だか 昼 昼にテレビ見ることないので ぼく

608YC: なんやそれおまえ [若-若]

2.2. 対称詞

2.2.1. 結果

[表 4 対称詞]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
アンタ	2	-	-	6	-	-
オマエ ^{*1}	2	-	-	1 ^{*2}	-	-
ワイ ^{*3}	1	5	-	-	-	-
名前+チャン	2	-	-	-	-	-
ジーチャン					1	

*1 オマエ、オマイ、オマ、オーを含む。

*2 参考: YC はオマエ類を 27 例使用している。

*3 ワ、ワリヤ、複数ワイドンを含む。

(1) SA は《対若》にはワイ系を専用している。

(2) SA も YA も《対調》に対称詞を使用しない傾向がある。

2.2.2. 解釈

(a) SA は《対老》にアンタ・オマエを用い、《対調》には対称詞を用いないという傾向が

あり、また《対老》《対若》にはワイを連続的（老く若）に使用している。このことから、2.1.と同様に、ソトあるいは疎の YF・F と親族 SC・YA との間、そして SC とそれ以外との間に2つの切換え軸の存在がうかがわれる。

(b) YA は《対若》：《対老》：《対調》＝アンタ：親族名称ジーチャン：不使用という、カテゴリカルな切換えがある。

(c) SA と YA に共通する対称詞の《対調》への不使用は、カテゴリカルな切換えとみなせるだろう。ソト・疎の対話者に対して対称詞で言及することを避ける規範があるようだ。分析対象外の談話で、義務的にソト・疎の対話者に言及せざるをえない発話を SC が行っている（[8] [9]）が、その場合はオマエサーやオマンサが用いられている。

[8] 宗教勧誘者への発話の直接引用

461SC: (省略)こんまい[この前]ゆーたばっかいじゃつどがーち おまえさーがそれじゃったはずじゃがー
ちゆー ゆわったー [その人は]すいませんー [老-調]

[9] YF・F に対する発話

274SC: 相手に対してな (YF: ふーん ふーん) ほどおまんさがおやって(YF: そーですね) あえ 標準
語を出そー出そーとすっわけよ [老-老]

(d) YA が 1 例のみオマエを使用している。YA が YC をうらやんで不満を述べるという話題から、①オマエはアンタより待遇が低いこと、また②相手あるいは話題への快不快が切換えに関与することが考えられる。

[10] YC の出身中学では教室にテレビがあったということに、YA が不満を言う。

620YC: ん 上からテレビがぶら下がっちゃった教室に

621YA: まーじ

622YC: うん だよ

→623YA: おまえ なにもいえなくなった [若-若]

2.3. 原因・理由の接続助詞

2.3.1. 結果

[表 5 原因・理由の接続助詞]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ノデ	-	-	1	1	-	2
ンデ	1	-	-	-	-	9
カラ*1	1	3	13	6	2	-
デ*2	9	7	-	-	-	-
コトデ・モンデ*3	-	3	1	-	1	-
ジャケ	1	-	1	-	-	-

*1 カーを含む。ただし、指定辞やデハナイカが後接するカラ・カーは除外した。

*2 用言直接のデのほか、準体のトに後接するデ、体言に後接するジャッデ、ヤッデ、ジャンデも含む。

*3 原因・理由を表すと解釈できるコトデ、コッデ、コンデ、モンデ、トコデ。

(1) YA には《対若》《対老》：《対調》＝カラ：ンデ・ノデという、ほぼカテゴリーカルな切換えがみられる。なお、《対若》で1例用いられたノデについては、(3)で具体例をあげ（〔14〕）、2.3.2.(d)で解釈を述べる。

(2) SA は《対老》《対若》にデ、《対調》にカラを主に用いているが、《対若》にはカラを併用しており、連続的な切換えといえる。SA が《対若》で用いるカラは以下のとおり。

〔11〕

128SA:おー じーちゃんだっ こな一時代が変わつとるから もー(YA:ふーん)今ん ***なこたー わ
からん [老-若]

〔12〕

189SA:さー もー 今ん時代でやいわなあつこつじゃつどねー(YA:うん)士族平民じゃったわけよ(YA:うん
うん うーん)士族と平民** (YA:うん)むか[向こうは] 平民ばつかやつたから(YA:うんうん)**
[老-若]

〔13〕

235SA:そん頃 しゅんくちゆつかせー あえ なかつた そえ なかつたとかーねー [老-若]

(3) ノデの用例は以下の通り。

〔14〕 YA 発話

604YC:なんでー 天まで届けー お昼の とつ あれー出ちよつた

605YA:え だって

606YC:たくさん兄弟のいる あれ

→607YA:いや だか 昼 昼にテレビ見ることないので ぼく

608YC:なんやそれおまえ [若-若]

〔15〕 YA 発話

255YF:いやー わたしー なんか そーゆー時 やっぱり一人暮らしがいーなーとか あるのかなー

→256YA:はい んー 別 夜遅いとか何もいわないんすけど(YF:えー)なんか 生活一般に(YF:一般に)対
してうるさいので(YF:んー)んー [若-調]

〔16〕 YA 発話

431YF:んー あ どーゆーのにはいりたかつたんですか

432YA:いえ もー なんでもいーんですけど

433YF:{笑いながら}なんでもいーんです

→434YA:{笑いながら}友達が(YF:うん) いないので [若-調]

〔17〕 SA 発話

249YA:そうち ==[YA の名前] ==[YA の名前] 孫が先生じゃもんー(YF:えー) 鹿児島弁なかつた
やなつとかなーちゅーので(YF:えー)そやーなつてよー(SC:{笑})標準語つかもやしがよーつち

[老-調]

- (4) YA のノデ 3 例はすべて中途終了発話である。なお、《対若》でのカラ 6 例中、中途終了発話は 2 例で、《対調》でのノデ 9 例中、中途終了発話は 6 例である。

2.3.2. 解釈

- (a) ドメインは《対老》《対若》：《対調》と切換えられており、YA と SA で共通しているが、それぞれの具現形が異なる。若年層はドメインに関しては伝統的な規範を保持しつつも、共通語化によって老年層と異なる形式を用いるようになったと考えられる。
- (b) ただし(a)のうち YA の《対老》発話については、YA が《対老》で用いているカラ（〔18〕）2 例のうち 1 例が中途終了発話「寿司屋に連れて行くからねー」であり、この中途終了発話のカラは後件に対話者への働きかけの表現（「待っていて下さい」などの依頼や命令の表現）を予想させることからノデ・ノデに置き換えにくく、親しい目上の SA に中途終了のノデ・ノデを使えないのかどうかはわからない。

〔18〕 YA 発話

248YA: バイト行くよ バイトあ 5 時からだから(スーと息を吸う) すや ほー(スーと息を吸う) はー 寿司屋に連れて行くからねー そのうち

〔老-若〕

YA のドメイン間切換えとノデ・ノデ・カラの待遇価を考えるためには、YA の《対老》発話データを増やして、ノデ・ノデに置き換え可能な環境で用いられるカラの有無を確認する必要がある。

- (c) SA はジャケを《対調》場面で 1 例用いているが（〔19〕）、SA は話題について検索中であり、YF への注意が弱まっている可能性がある。

〔19〕 掛かっている古い賞状についての YF の質問に答えようとしている。

073SA: に 28 年ごりゃった[頃だった]から昭和の(YF: えー) いっぱーじゃけなー えっと 植樹祭じゃろ

〔老-調〕

- (d) YA が《対若》で 1 例用いたノデには、発話内容から、YC に対して YA が「良い」自分を演出してやや距離をとるための、ドメイン内の切換えの機能があると考えられる。

2.4. 原因・理由の接続詞

2.4.1. 結果

〔表 6 原因・理由の接続詞〕

	老 (SA)		対調	若 (YA)		対調
	対老	対若		対若	対老	
ダカラ*1	-	-	-	3*2	2	-
ホイデ・デ*3	-	2	2	1	1	1
ホイジャケ	-	1	-	-	-	-

*1 ダカー、ダカを含む。

*2 参考：YC は 7 例使用。

*3 ホイデ、ホンデ、ホデ、ソレデ、セーデ、ンーデ等のように指示詞を含むものと、デのみで用いられるものがある。これらのうち、文脈的に原因・理由を表すと解釈できるものを集計した。

- (1) SA は方言形式のみを使用しているが、YA は標準語形式ダカラの使用が多い。
 (2) SA は《対老》で接続詞を全く使用していない。

2.4.2. 解釈

- (a) 接続詞の使用が少ないので断言はできないが、SA は主として伝統的方言形式を使用し、YA は標準語形式と方言形式を併用しており、原因・理由の接続詞は切換えに関与する形式の対立がない可能性がある。
 (b) 結果 (2) については、〔老-老〕談話の展開が SC 主導で、SA は積極的に話題を展開することが少なかった点が原因と考えられる。稿末【注 2】の〔表 6〕のように、SC は《対老》でホンデ・デ類 12 例、ダカラ 1 例を用いている。

2.5. 逆接の接続助詞

2.5.1. 結果

〔表 7 逆接の接続助詞〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ケド	1	1	7	8	2	42
ケドモ	-	-	-	1	-	-
ケンド	-	1	-	-	-	-
ドー	-	1	-	-	-	-
ドン	1	-	1	-	-	-
ドンガ	1	-	-	-	-	-

- (1) 《対調》でケドが多く用いられる。とりわけ YA のそれが突出している。
 (2) YA のケドモの用例は以下の通り。

[20]

224YA: あー ===[人名]さんわ落ちたけども [若-若]

- (3) SA が《対調》で用いたドンは [21] に挙げる。ターンを SC からとった後にまた SC へ戻している点、また SC の結果 (稿末【注 2】〔表 7〕) ではドンが《対老》専用形式となっている点から、〔老-調〕とはいえかなり SC 向けの発話であると思われる。

[21]

461SC: (省略)こんまい[この前]ゆーたばっかいじゃつどがーち おまえさーがそれじゃったはずじゃがーちゆー ゆわったー [その人は]すいませんー

→462SA: なんいのー やっぱい宗教にからんじよったいかしらんどん っぱキリストはキリストじゃるなー

463SC: じゃんどんん*なー [老-調]

2.5.2. 解釈

- (a) SA の用例が少ない (方言形式が各々1、2例ずつしかない) ので確定的なことは言えな

いが、SA は《対調》には概ねケドを用い、《対若》にはケド・ケンド・ドー、《対老》にはケド・ドン・ドンガを用いて、連続的な切換えをしている可能性がある。

- (b) YA は概ねケド専用であり、逆接の接続助詞は YA の切換えマーカではない。
- (c) YA の《対調》でのケド使用の多さについては、中途終了発話が多いことから、文を最後までいわないことによる YF への待遇的な配慮が関わっている可能性がある。今後、他地域のデータと対照し、若者の傾向として一般化できるか検討したい。

2.6. 逆接の接続詞

2.6.1. 結果

[表 8 逆接の接続詞]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
シカシ	-	-	-	1	-	-
デスクド	-	-	-	-	-	1
ケド	1	-	-	*1	-	-
デモ	1	1	-	5	-	10
ソレデモ	-	-	-	1	-	-
ホデモ・ンデモ	1	-	1	-	-	-

*1 参考：YC は 3 例使用。

- (1) YA は《対若》《対調》でデモを多用している。

2.6.2. 解釈

- (a) SA、YA とともに、このデータにおいて、逆接の接続詞では切換えがみられない。
- (b) YA は《対老》での逆接の接続詞の使用がみられないが、これは YA が質問し SA が答えるという談話の展開から生じる結果だと考えられる。

2.7. 動詞否定形式

2.7.1. 結果

[表 9 動詞否定形式*1]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
マセン	-	-	-	-	-	6 ^{*2}
ナイ ^{*3}	2	1	2	19	4	48
ン ^{*4}	12	15	13	13	6	4
ネー	-	1	-	3	-	-

*1 過去・非過去の区別なく集計。

*2 このうち、スイマセンは 5 例。

*3 ナア、ナを含む。

*4 ～ナラン、～イカン、～ンニヤ～、～ンナ～、～ント～、～ンカッタ、～カモシレンを含む。因みに～ンカッタの使用数は、SA 《対調》 1、YA 《対若》 2、YA 《対老》 1。

- (1) SA はマセンを使用していない。
 (2) SA はン中心だが、以下のようにナイ・ナアをわずかに用いている。

[22]

321SA:こえ[SW のこと]が 気にしちよーもんだから(SW:[咳払い])(YF:はい)鑑定の通り あ 鹿児島語
 であかたえらんないなー [老-調]

[23] 承諾書に住所を書くのか YF に尋ね、書かなくてよいと言われて

609SA:こえ 住所はいらんどですか 住所はしない へー [老-調]

[24]

193SA:かごひまご[鹿児島語]使えばー いかないごったつとなー [老-老]

[25]

189SA:さー もー 今ん時代でやいわなあつこっじゃつどねー(YA:うん)士族平民じゃったわけよ(YA:うん
 うん うーん) [老-若]

- (3) SA も YA も、ネーをわずかに使っている。以下の通り。

[26] いけてない、の意味で

270YA:{笑いながら}いつけねー [若-若]

[27]

559YA:{笑}あーー ==[人名]ちゃーん 別会いたいとも思わねーし 会っても話すこともねーや
 {笑} [若-若]

[28]

758YC:そーいや バスケ選手がねー (YA:うん)試合が終わった後とかにー (YA:うん)足を休めるため
 に履く靴だからね

759YA:まじでー 休まんねーよ [若-若]

[29]

191SA:うん そいで くやく[詳しく]かたえらんねーちや*** (YA:{笑})そじゃ ぶら 部落がちごー
 [違う]でねー(YA:うんうん) ちよつと そっこ そこやつたつどねー(YA:うんうん)んー [老-若]

2.7.2. 解釈

- (a) YA のナイ／ンに注目すると、ナイの使用率は高いほうから順に《対調》>《対若》>《対老》、ンの使用率は《対老》>《対若》>《対調》であり、連続的な切換えがみられる。なお、《対老》で YA のン使用率が上がっていることに関しては、ン使用中心の SA にコンバージェンスしている可能性もある。
- (b) YA は(a)のようなナイ／ンの連続的な切換えに加え、《対若》ではネーを、《対調》ではマセンを使用するというカテゴリー的な切換えも行っている。
- (c) SA は、ネーを《対若》だけに使用してはいるが1例しかなく、ドメイン間の切換えはないといえる。

2.8. ではないか（否定疑問形式）

2.8.1. 結果

〔表 10 ではないかⅠ類*1〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ジャナイ	-	-	-	1 ^{*2}	-	-

〔表 11 ではないかⅡ類*1〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若 ^{*5}	対老	対調
ジャナイスカ ^{*3}	-	-	-	-	-	2 ^{*3}
ジャナイカ	-	-	-	1	-	1
ジャナイ ^{*4}	-	-	-	3	1 ^{*4}	-
ナカ	-	-	1	-	-	-

*1 田野村（1988）の分類に沿う。ただし、直接引用の例は除外した。

ではないかⅠ類：用言・体言のどちらにも接続し、発見した事態を驚き等の感情を込めて表現したりある事柄を認識するよう相手に求めたりするもの。

ではないかⅡ類：体言相当に接続し、推定を表現する。

*2 参考：YCはジャナイ2例、ジャナイノ1例、ヤン3例を使用している。

*3 ジャナインスカ1例を含む。

*4 ジャナイノ（YA《対老》1例）を含む。

*5 参考：YCはジャナイ1例、ジャネーカ1例、ヤナイ1例、ヤナイノ2例を使用している。

- (1) ではないかⅠ類については、SA、SCには否定疑問形式の用例が全くなく、YAも1例だけである。ただし、YCは6例用いている。
- (2) ではないかⅡ類のジャナイカは、YAのデータでは「と思う」などの引用構文の補文（《対若》1例、《対調》1例）だけであった。
- (3) SAは、否定疑問形式についてはナカ1例しか使用していなかったが、SCには、ではないかⅡ類のジャカンカが1例見られた。SCの結果については稿末【注2】の〔表11'〕を参照されたい。

〔30〕

042SC:おー*****ー(YF:ほー)刀剣所持法の違反じゃかんかー〔笑〕

〔老ー調〕

2.8.2. 解釈

- (a) ではないかⅠ類の否定疑問形式をYCは6例使用しているので、鹿児島方言にはないかⅠ類の否定疑問形式がないわけではないらしい。だがSA・YAは、ではないかⅠ類に否定疑問形式をほとんど用いず、意味・機能の面でこれにある程度相当する推量形式（確認要求用法）を使用している（次頁〔表10'〕参照）。この点については、ではないかⅠ類の否定疑問形式がドメイン間切替えに与らないこと他に、使用に個人差がある可能性や、否定疑問形式（ではないかⅠ類）と推量形式（確認要求用法）との意味・機能に何らかの違いがある可能性などが挙げられるが、現時点ではこれ以上言及するこ

とができない。

[表 10' 推量形式の確認要求的用法]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
デショー	1	1	2	9	1	-
ヤロ・ロ*1	-	1	-	1	1	-
ジャンド	1	-	-	-	-	-

*1 ロとは、具体的には過去形式+ロのことである。YAが《対老》で1例使用している。SAには見られなかったが、SCは《対老》で過去形式+ロ+ワ(-)を2例用いている。なお、ジャロとダロはすべて推量用法であった。

(b) YA は、ではないかⅡ類に関して、《対若》《対老》にジャンイ・ジャンイノを用い、《対調》には丁寧形式が含まれたジャンイスカを用いて、カテゴリーカルな切換えを行っている。

2.9. 間投助詞・終助詞

2.9.1. 結果

[表 12 間投助詞*1]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
丁寧+ネ	-	-	9	-	-	-
ネ	2	12	4	24	9	13
サ	-	-	-	20	5	1
ナ	23	3	13	2	-	-
ノ	-	1	2	-	-	-

[表 13 終助詞*1*2]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
丁寧+ネ	-	-	8	-	-	21
ネ	1	12	1	1	9	-
ナ	18	1	19	2	-	3
ノ	-	1	1	-	-	-

*1 テ形、格助詞、副助詞、接続助詞、疑問詞、接続詞、副詞、引用形式に後接するもの、また指示詞、名詞などに後接する場合に、そこで発話が終了すると不自然になるものを間投助詞とした。これら以外を終助詞とみなした。

*2 疑問の助詞カに後接するネ・ナは除外した。

- (1) 間投助詞サはYAだけが用い、SAにはみられない。
- (2) 間投助詞・終助詞ノはSAだけが用い、YAにはみられない。
- (3) SAにもYAにも連続的な切換えが観察できる。

2.9.2. 解釈

- (a) SA は間投助詞・終助詞ともに《対老》にナ、《対若》にネを用い、《対調》に丁寧形式+ネとナを併用する。このことからナはネよりも丁寧な形式と認識されているといえる。これは先行研究の述べるナの待遇価の高さと合致しており、自称詞や対称詞と同様、SA は伝統的鹿兒島方言の待遇表現の部分体系を維持しているといえる。
- (b) YA は、間投助詞ネを《対若》だけでなく《対調》にも多用しているのに対し、間投助詞サは主として《対若》に用いている。しかし終助詞では、ネを《対若》に、丁寧形式+ネを《対調》に用いている。つまりYA にとって間投助詞サは「仲間うち」のみに使われるスタイル・マーカであり、ネは間投助詞にしる終助詞にしるそうした制限をもたないフリーな形式なのであろう。ただし、YA の用いる間投助詞のサとネの意味・機能の異同については、今後詳細に検討する必要がある。
- (c) 終助詞については、本稿では〔表 13〕の注記のようにおおざっぱに定義して集計しているが、ネ・ナ・ノの互換性について検討する余地がある。とりわけ、SA の用いるネ・ナ・ノとYA の用いるネ・ナは意味・機能が異なると感じられる場合もあるため、これらについての文法記述をすすめた上で検討し直すことも必要であらう。

2.10. アスペクト形式

2.10.1. 結果

〔表 14 アスペクト形式*1〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
テイル系*2	6	2	8	48*3	4	24
チョル・トル/ ヨル・ユー系	12	14	19	1*4	-	-

*1 過去・非過去、肯定・否定の区別なく集計。

*2 テオル系、テアル系も含む。SA は《対調》でテオル系 2 例、テアル系 2 例を用い、YA はテアル系を《対若》で 3 例、《対調》で 1 例用いている。

*3 「してあった」の意のシチャッタ (YA 《対若》1 例) を含む。

*4 参考：YC はチョル系を 3 例使用。

〔表 15 方言アスペクト形式の詳細*1〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
チョル系	9	9	14	-*2	-	-
トル系	2	3	3	1	-	-
ヨル系	1	1	2	-	-	-
ユー系	-	1	-	-	-	-

*1 過去・非過去、肯定・否定の区別なく集計。

*2 参考：YC は 3 例使用。

- (1) YA は方言アスペクト形式を《対若》で〔31〕のように 1 例だけ用いているが、《対老》《対調》では全く使用していない。

[31]

227YC: (前半省略) だからたぶん===[人名]さんが受けたん 福岡の なんかティージェーグループの
→228YA: んー {カんで}え あの人ティージェーも受けたつつとるで

229YC: まじ

[若-若]

- (2) 表 15 に方言アスペクト形式の使用状況を示したが、 Chol と Tol, Yor と Yoo の間に切換えはみられない。

2.10.2. 解釈

- (a) SA に関しては、テオル系、テアル系を《対調》のみに用いてはいるが、アスペクト形式は SA の切換えマーカではないといえる。
- (b) YA の方言アスペクト形式については、[31] から、①終助詞デとの共起、②対話者の発話内容への疑問提示や訂正という談話内容、という 2 つの特徴が挙げられる。しかし、YA のトル系の用例が 1 例しか得られなかった上、①の終助詞デは [32] のようにテイル系とも共起していること、また②のように内容面で同質な談話が [若-調] や [老-若] でみられないことなどから、YA の方言アスペクト形式の機能について言及することができない。この YA の方言アスペクト形式については、今後ドメイン内切換えに関わる何らかの機能をもつかを確認することが必要である。

[32]

501YC: 体調とかあるのけー プレ ストレスとか めっちゃストレスたまつて最近そーいえば [若-若]

3. まとめ

- (a) YA が伝統的方言形式をあまり使っていないため、SA は使用形式が多く、YA は使用する形式が少ないという結果が見られた (2.1.自称詞、2.2.対称詞、2.3.原因・理由の接続助詞、2.5.逆接の接続助詞、2.10.アスペクト形式)。
- (b) (a)に関連するが、方言形式/標準語形式によるドメイン間切換えに関し、SA は《対老》と《対若》との間での切換えと、《対調》と《対老》・《対若》との間での切換え (ソトあるいは疎な者に対する切換え) のように複数の切換えを並行させていると考えられる場合があるのに対し、YA にはドメイン間切換えの軸が少ない場合がある (2.1.自称詞、2.2.対称詞)。
- (c) YA の使用する伝統方言形式が、ドメイン間切換えではなくドメイン内における何らかの機能を担った形式として用いられていると解釈できるものがあつた (2.1.自称詞、2.2.対称詞、2.3.原因・理由の接続助詞)。
- (d) YA は SA の用いない形式をもち、これを主に《対若》で使用している場合がある。間投助詞サ (2.9.) などがそれに当たる。YC の結果も考慮すると、ではないか I 類の否定疑問形式 (2.8.) もここに含まれるかもしれない。

- (e) 動詞否定形式 (2.7.) やアスペクト形式 (2.10.) などの義務的形式では、SA に切換えがみられない。
- (f) SA の使用形式は《対老》では 2 形式以上使われることが多いが、《対若》では 1~2 形式に限られるケースが観察された (2.1.自称詞、2.2.対称詞、2.3.原因・理由の接続助詞)。SA の分析対象データが量的に少ないこと、また分析した項目が少ないことから、現段階でこうしたケースを普遍化することは危険であるが、これらの項目では、使用形式がすでに少なくなっている YA にあわせて SA が自分の使用形式を制限している可能性、別の見方をすれば SA が YA にコンバージェンスしている可能性が考えられる。ただし、使用形式の偏りがあるだけで SA と YA の間にあまりバリエーションの差が見られない動詞否定形式 (2.7.) に関しては、YA が SA にあわせていると考えられるような逆の現象もみられた。今後、深めていきたいテーマである。

4. 展望

- (a) SA、YA ともにコメントしているが、アクセントの切換えは難しいようである。この文字化データはアクセント、プロソディの情報を書き込んでいないので、こうした現象の観察には使用できない。今後、文字化データのありかたについて検討する必要がある。
- (b) [若-若] 談話をみると、自称詞や対称詞などの語彙項目において YA と YC との間で使用傾向が異なっている。親友とはいえ先輩・後輩の関係があること、談話のすすめかたも YC 主導の面が強いこと、また YA が比較的小となしい人物であることなど、話者の関係やパーソナリティに関わる要因も考慮する必要があるようだ。このような要因をどのように処理するかについては、今後考えなければならない。
- (c) 本稿で用いているデータでは、YA の《対調》で逆接の接続助詞ケドが中途終了発話で頻用されるという結果がでたが、こうした傾向は他地域にもみられるようである。今後、他地域のデータとの対照をすすめ、その理由などを分析することが課題として残されている。

【注 1 同席者の属性・談話情報】

[表 1' インフォーマント情報]

	年齢	職業	居住歴
SW	70代	主婦・農業	0歳-1953年：鹿児島県日置郡伊集院町 1953年-：鹿児島県日置郡松元町
F	40代	大学教員	0-18：北九州市 18-33：福岡市 33-：鹿児島市

〔表2〕 談話情報〕

話者	同席者	話者との関係	談話の展開
老-老 SA-SC	F	F:初対面、孫YAの先生	話題がとぎれたとき、話題提供のかたちでFが談話に参加。以後、SAとSCはFと対話したりFを無視してSAとSCだけで談話をすすめたりしている。
老-若 SA-YA	SW、F、YF	SW:SAの妻 F:初対面、孫YAの先生 YF:初対面、大学関係者	話題がとぎれたとき、話題提供のかたちでFが談話に参加。以後、その場にいた全員が談話に参加することになり、主にYFとFが質問し、SA、SWまたはYAが答える。
老-調 SA-YF	SC、SW、F	SC:SAの親戚 SW:SAの妻 F:初対面、孫YAの先生	YFとFが質問、SAとSCが答える。途中でSAが一時退席し、それからはSAに促されてSWも談話に参加する。

〔表2'〕 分析対象箇所〕

	話者	収録時間	分析対象箇所
老-老	SA-SC	18分	011-171、193-229
老-若	SA-YA	15分	002-024、064-258、580-609
老-調	SA-YF	26分	001-270、305-647
若-若 ^{*1}	YA-YC	32分	041-777
若-調 ^{*2}	YA-YF	30分	001-475

*1 談話の初めと終わり(001-040、778-826)は、収録の開始・終了を告げるためにYFが加わった。

*2 全収録談話が分析対象。

【注2 SCのデータ】

鹿兒島データでは〔老-老〕でのSA発話が少なく、またSCの同席によって〔老-調〕でのSA発話も少ない。以下、SAデータを補うために参考としてSCのデータをあげる。

〔表3〕 SCの自称詞(2.1.自称詞)〕

	老(SC)	
	対老	対調
ワタシ・ワタクシ	-	1
アタシ	5	2
オレ ^{*1}	2	-
オイ	1	1

*1 オエを含む。

〔表4〕 SCの対称詞^{*1}(2.2.対称詞)〕

	老(SC)	
	対老	対調
アンタ	4	-
ワイ ^{*2}	3	-
オマエ	1	-

*1 〔老-調〕談話のなかではSCも積極的に談話に参加し、対SA発話も多いため、SAを指していることが明らかな対称詞は《対老》に加えた(ワイ1例、アンタ2例)。

*2 ワを含む。

[表 5' SC の原因・理由の接続助詞 (2.3. 原因・理由の接続助詞)]

	老 (SC)	
	対老	対調
カラ*1	2	6
ンデ	2	1
デ*2	9	1
モンデ・コンデ*3	3	2

*1 カーを含む。ただし、指定辞やデハナイカが後接するカラ・カーは除外した。

*2 用言直接のデのほか、準体のトに後接するデ、体言に後接するジャッデ、ヤッデ、ジャンデも含む。

*3 コトデ、コッデ、コンデ、モンデ、トコデ。全例、原因・理由を表すと解釈できる。

[表 6' SC の原因・理由の接続詞 (2.4. 原因・理由の接続詞)]

	老 (SC)	
	対老	対調
ダカラ	1	-
ホンデ・デ*1	12	2

*1 ホイデ、ホンデ、ホデ、オイデ、セーデ、ソーデ等のように指示詞を含むものと、デのみで用いられるものがある。これらのうち、文脈的に原因・理由を表すと解釈できるものを集計した。

[表 7' SC の逆接の接続助詞 (2.5. 逆接の接続助詞)]

	老 (SC)	
	対老	対調
ガ	-	2
ケド	2	9
ケドモ	-	1
ドモ	-	2
ドン	10	-
ドンガ	-	1

[表 8' SC の逆接の接続詞 (2.6. 逆接の接続詞)]

	老 (SC)	
	対老	対調
ケド	1	-

[表 9' SC の動詞否定形式 (2.7. 動詞否定形式)]

	老 (SC)	
	対老	対調
ナイ	-	2
ン*1	21	10

*1 ～ナラン、～イカン、～ンニャ～、～ンナ～、～ント～、～ンカッタ、～カモシレンを含む。SC の～ンカッタの使用数は、《対調》2。

[表 11' SC ではないかⅡ類 (2.8. ではないか (否定疑問形式))]

	老 (SC)	
	対老	対調
ジャーナイカ	-	1
ジャカンカ	-	1

[表 12' SC の間投助詞 (2.9. 間投助詞)]

	老 (SC)	
	対老	対調
丁寧+ネ	-	3
ネ	3	11
ナ	51	20
ノ	-	1

[表 13' SC の終助詞 (2.9. 終助詞)]

	老 (SC)	
	対老	対調
丁寧+ネ	-	1
ネ	-	-
ナ	10	3
ノ	2	-

[表 14' SC のアスペクト形式 (2.10. アスペクト形式)]

	老 (SC)	
	対老	対調
テイル系*1	2	3
チョル・トル/ヨ	24	9
ル・ユー系	-	-

*1 テオル系も含む。SCは《対調》でテオル系を1例使用。

[表 15' SC の方言アスペクト形式の詳細 (2.10. アスペクト形式)]

	老 (SC)	
	対老	対調
チョル系	13	5
トル系	7	2
ヨル系	2	2
ユー系	-	-

【参考文献】

- 後藤和彦 (1983) 「鹿児島県の方言」『講座方言学9 九州地方の方言』国書刊行会
 田野村忠温 (1988) 「否定疑問文小考」『国語学』152
 橋口満 (1987) 『鹿児島県方言辞典』桜楓社

ふなき れいこ (大阪大学大学院生)

funer@md.neweb.ne.jp

[老一老]

収録日時：2000年3月24日
 収録場所：SA宅
 話題：暗渠の工事 → 工事の申請方法 → 道路
 工事 → 防火用水タンク → 防犯灯と指
 定電気店 → 伝統的鹿児島方言 → 標準
 語使用

- 054SC: ほでー ===== [人名] ちゃんも あ
 えー あー どこーちまーきーなっこっ
 でっでほらー (SA: うーん) なんかい
 ろしえんと (SA: ふーん んー) 歩道を
 あえわ {咳払い} == [人名] ちゃ
 んが今度 うえおっかー このぶー う
 えっごじゃんどがー (SA: はー はーは
 ー) あん畑せーこーおなー 前道せな
 今ー 道路ままじゃーいえーかく[鋭角]
 やまんでー (SA: うん) こー切り返し
 を 二、三度しえな まげから まがっ
 しえー 車がまげらんわけよ (SA: ん)
 ほで わがん畑で (SA: あー) こー ま
 わっていくーして (SA: ん) 工事を今し
 よんぢ そんな そんなしらすが わーんわ
 んなか
- 055SA: ほいじゃん くるー ひく 低い 低
 い ひくーして
- 056SC: すそど
- 057SA: 結局はどろいごしたらー
- 058SC: じゃんどが
- 059SA: うんうん あーそーのため はーは
- 060SC: こー わがん畑おまっせーな (SA: そ
 ーなん) そんな砂が ほら そなちー流る
 ーわ今日 (SA: ふん) このまそや 工事
 が済めばー もーな (SA: うんうん) 流
 れやせんたんぞともー (SA: うん んー
 ー) ほで そーも きゅーどんほから
 くいみっどー
- 061SA: あー
- 062SC: とさげんきどこんなへんから あんた
 ーこっちー流れつきはんどがー
- 063SA: そー そあもー でも そこが そこ
 がねったって
- 064SC: そーが 道路をまもー [守る] で 側

溝へななじおーくっでほで (SA: んー)
 そんとを こん 横断側溝いれて (SA:
 うん) あん ごりきんごっかそれあそれ
 でよーち当たり前だったー (SA: うん
 うん んー) ま それしかないですねー
 ちや ばー あーゆー てもどいまさず
 な

- 065SA: うんうんうん へー そー そー や
 っばし じゃろせー あそや 側溝 側
 溝いのなー 側溝が あーゆーこっちや
 くびああったんど あ あったんどのな
 お*どなー
- 066SC: あったんどんかー も今いごっそえ
 低くなっちよっけどなー (SA: んー)
 側溝ほーが高いほーにない (SA: んー)
 路面がおー傾いてしもて
- 067SA: そーゆふーになっちよっどやなー今
 へーそーな {へーそーな はつぶやくよ
 うに} そらもー ちよーどおんなじや
 っでー はたえもな くるこーして {咳
 払いしながら} あるいは ぼくは水槽が
 でくったちゅーんでやなー
- 068SC: そは***そこえんどが
- 069SA: はいはい
- 070SC: はいはいはい そあもー 今度 12年
 度予算でー もー決定やんど
- 071SA: 決定しとっど
- 072SC: はー
- 073SA: はー そや
- 074SC: そえと そこのー おいさんのそこ [側
 溝] ん どこえも
- 075SA: うん 決定しとっど
- 076SC: 12年度で 予算が ついて
- 077SA: あーはー 決定してるわけいなー ん
 ー
- 078SC: ほーで そこ===== [人名] どんの
 前おなー (SA: うん) 移転了解とゆー ま
 えー はな [話] があつたわけよ (SA:
 うん) ほで まーあのー ===== [人
 名] ちゃんにや悪いけど (SA: うん) あ
 りや道路余地だから (SA: そー) あすこ
 ぐらいでないとん 別いー 場所あなか
 と (SA: うん) ゆーことを まー 聞い
 たわけよ (SA: ふーん) ほで 広がんで
 おらんそかなー

〔老一若〕

収録日時：2000年3月24日
 収録場所：SA宅
 話題：承諾のこと → 方言札 → 標準語教育 →
 鹿児島方言の地域差 → 西南戦争 → ア
 ルバイト → (中断) → 親戚

- 075SA：わいに {咳払い} わいがお わがおが
おぼせゆー よ 用語はなかか
- 076YA：よーごー
- 077SA：んー 用語あ国語悪かけんど ないか
かな かた はな かたりごたちゆーこ
とあ
- 078YA：なん なんかねー {笑} なんかねー
あー あれ 教えてよ
- 079SA：なん*
- 080YA：方言札 てゆーのがあったろ 昔 な
んかさー 方言を使っちゃいけないみた
いな きまり
- 081SA：学校でやろ
- 082YA：学校とか そーそー
- 083SA：んー そんとのたー おいとが時代じ
やなかったでよー
- 084YA：おー (SA：んー) そえ もっと前
- 085SA：んーんー す まだ後よ
- 086YA：後
- 087SA：おーが兵隊行ったち頃
- 088YA：おー じゃー (SA：んー) じーちゃん
と おとーさんの あいだぐらい
- 089SA：んー ちゅわねー (YA：んー) {スー
と息を吸う} 戦争わ まー だいたい戦
争やけねー (YA：んー) ばくげしかつた
頃 (YA：んーんー) かごひまがとーたい
でいたんち (YA：んーんー) ゆー時代が
あったー 学校先生がも厳しー (YA：ふ
ーん) **があつて** 標準語を使わ
なあかんこつなつたわけよ (YA：ふんふ
ん) んー
- 090YA：標準語
- 091SA：う うん 標準語ちゅー日本語の 標
準語が (YA：んー) {笑} (YA：んーん
ーんー) んー そーゆー時代があった
- 092YA：え それって なん 今の 50歳 と
か そんぐらい
- 093SA：んーー ま そんころじゃねー えー
つと
- 094YA：な
- 095SA：んにゃ そりよか [それよるか] 上じ
ゃねー
- 096YA：うえ
- 097SA：==== [人名] さんだか
- 098YA：の頃
- 099SA：そのころじゃ
- 100YA：ほーー
- 101SA：おー おいのころは そーゆーこちゃ
なかつたー
- 102YA：なかつたのー
- 103SA：んー なかつたつどに ==== [人
名] さんだかんころ そーゆーこつがあ
つた
- 104YA：ほーー ほー あじゃだれ ====
= [人名] さんとか
- 105SA：んにゃ しゃーしゃーかな うん
- 106YA：どのへん
- 107SA：んー みなかーじゃっかなー ==
==== [人名] ==== [人名] だん
どーこりよ
- 108YA：==== [人名] さん
- 109SA：んー
- 110YA：あー そっかー それ それもちよつ
と調べたいんだつて
- 111SA：んー さーあしきかんだわからん
- 112YA：んー 普通にさー == [小学校名]
小でまわつたわけ
- 113SA：うん くつつつがいぜん の いー
ひ よかつつこつて 文部大臣賞お も
ろ もろつたつたへーたけ
- 114YA：== [小学校名] 小が
- 115SA：んー == [小学校名] 小が
- 116YA：そりゃー なに (SA：うん) あのー ひ
よー 鹿児島弁を使わなかつたよつてこ
とで
- 117SA：んー 標準語ばつつか使つせよ
- 118YA：そー それは いーつてされたとき*
**
- 119SA：あー そー じゃかつたつとが うん
- 120YA：{笑いながら} はーー (SA：うん)

〔老一調〕

収録日時：2000年3月24日
 収録場所：SA宅
 話題：家系 → 手裏剣 → 賞状 → 山の神伝説
 → いわや観音 → インタビューの方法
 → (中断) → 鹿児島弁 → 田仕事の時期
 → 宗教団体 → 承諾書

153SA：そこに {咳払い} いわや観音様ちー
 のがあつてすよねー 有名ですよ かご
 しっけん [鹿児島県] でも

154F：あー いわ観音

155YF：いわ観音

156SA：いわ い いわ いわや観音

157SC：いわや観音

158F：いわや観音 あー

159YF：観音 あー

160SA：そこの神さまはー あの {咳払い} 参
 詣者が っぱい来て お賽銭がっぱいし
 ー なん 三、四十万 いつもお賽銭が
 あっがしすねー

161SC：*****

162YF：あ そーなんですか

163SC：あーい*****

164SA：そい 参詣者が多いわけ

165SC：ほんのおかのときにな (YF：あー) も
 ー道い *****

166SA：*** ** * ** * ** *
 鹿児島市なん めっ みみ せり見える
 ところに (F：あー) (YF：あー) あ
 るつつえねー その伝説はー 昔やっぱ
 い その人が ほとけだちゅ田んぼで
 すねー (YF：はい) ある百姓が うし
 牛を たってほら 田を起こしに行った
 わけよ (YF：えー) 田を鋤きに (F：
 はい) ほで 牛が 機嫌がわるーなっ
 てあの一 動かんごーなったわけ (YF：
 はい) 動かんよーになったから ま
 困り果てちよったわけよな (YF：えー)
 そこにー {笑} 白髪の老人が現れて
 (YF：はい) はい こ てつな [手綱]
 を取って やったら うご 動き出した
 っち (YF：はーはー) はーおしかった

ちーゆーて ふと見ちえ見たら (YF：え
 ー) うん はっ 白髪の老人が のこの
 こ のこのこ上がっていくのが見えちよ
 った (F：あー)

167YF：そん 坂の あれを

168SA：でその はい その後ずっとこーして
 行ってみたら 今そんくわん [観] 音様
 もそこにあつたとですな (YF：ほー) ゆ
 ーのも そや事実 あつてすよ

169YF：ほー

170SC：おっきな岩ん中です 岩の下

171SA：なん 何置ちゅよな岩ん中に

172YF：ほー

173SC：こんな大きい

174SA：ありゃ 何置かな

175SC：岩で支えられて岩が上に (SA：あー)
 乗っかっちょ*****

176YF：あ あじゃ 組み 組み合わさった感
 じで

177SC：穴たーじゃないんだけどな (YF：あー)

178SA：県下でもー さ 参詣者が多かどやな
 ー あすこなー

179SC：はー あすこーは も県外かーも (YF：
 はー) だいぶ来るらしーです

180YF：そーなんですか

181SA：んー 県下県外から

182SC：ま 上がりかたが大変だよな (YF：
 あー)

183SA：うん

184SC：曲がり曲がりー (YF：{笑}) 道やら も
 ー 木の根っこが出たり ほれ**
 (F：あー) (SA：{笑})

185YF：じゃ もー 歩いて上がるのも大変な
 んえすあー {発話末はつきりせず}

186SA：あー まー 歩いてー いわやくわん

187SC：きけーの あの こぬかの一こらー
 (YF：えー) 下かー [から] ある程
 度まであの一ほら げん つきー ちて
 道路 (YF：えー) の 横にこー石がこん
 高さがあるとがでしよ (F：あー) (YF：
 ふんふん) あれお (SA：{笑}) 階段
 にこーして使ったとこもあるんだけども
 (YF：えー) なにしお 重いしー (YF：
 んー) そらもーなかなかあいかた*
 もー上は 木の根っこどっこも

〔若一若〕

収録日時：2000年3月27日
 収録場所：大学構内
 話題：麦粒腫 → キャンパスビジョンの企画 →
 会社訪問 → ホームページ → 友人T →
 春休み → 麦粒腫 → 女子高生 M → テ
 レビ → 2チャンネル → 酒粕饅 → 靴

082YC：これなんなの キャンパスビジョン
 なんしてんのまじ 具体的に
 083YA：なんか なんかねー とるの あれを
 おーっと
 084YC：写真
 085YA：ちがう こーね もー 置いてあるか
 もしれん 学食に でっかいテレビにー
 ずっと流すの その なんだろー
 086YC：え プラバタイズ行って録ってきたの
 ひょっとしてビデオ
 087YA：プラバタイズはー 録ってない まだ
 088YC：あ そーなんか
 089YA：おれあー おれが一回行って 勝手に
 こーまわしてきたことはあるけど
 090YC：あーそー
 091YA：んー 別 それは編集の練習に使うだ
 けで あと ナマズの取材とかしたよ
 092YC：それ 聞いた
 093YA：うーん
 094YC：ナマズどーだった
 095YA：ナマズー もっ 売れん
 096YC：{笑}
 097YA：{笑}
 098YC：ってかよー 名前がまずいんだって
 だからー
 099YA：ズ だもんね
 100YC：ズーでしょー ユ ズー と ナ マ
 ズー
 101YA：マ ズーだもんね
 102YC：韻ふんでるよ
 103YA：そーそー (YC：ん) どーしよ しかも
 なんかほら見てん 企画ものとか (YC：
 うん) 見たー ここ (YC：はい) 企画も
 の 企画してみたり
 104YC：うーわ 最悪

105YA：{笑} でも それ やりたくない (YC：
 うー) こー 青春 18 切符でどこまで行く
 るかとか
 106YC：あ そりゃーやりたいけどー
 107YA：やってみたい いや てゆーか おれ
 108YC：てや もー 具体的にさー (YA：うん)
 あいのりとか ぐ {笑いながら} ごち
 になりますとか (YA：{笑}) やけぼっく
 りとか もー めっちゃ おえ[おまえ]
 ぱくりまくりやない (YA：{笑}) ぱくり
 まくりしてやらえんわ
 109YA：{つぶやいて} あいたー {笑}
 110YC：{笑}
 111YA：やな なんか ごちとかでもさー い
 や こー 別にこれ 写すとか写さない
 は別にして やってみたいくない
 112YC：まーね
 113YA：あいのりも やってみたいくない
 114YC：{力んで} あいのりは うーー
 115YA：{笑}
 116YC：{笑} あいのりは ちょっとねー
 117YA：うっそー あいのり
 118YC：あいのりなんかよりー さー ===
 = [人名] さんが めっちゃあいのりあ
 いのりってゆーけどさー
 119YA：ゆってんねー
 120YC：あー どーけーて思うがよー
 121YA：ま ちなみに
 122YC：未来日記のほーがちよっと
 123YA：あー 無理
 124YC：{歌って} ミチュメハーフトモー
 125YA：{笑}
 126YC：{歌って} スハーホニー
 127YA：ちよっと うまいから 嫌なんだって
 {笑}
 128YC：{笑} {歌って} オシャハー*
 129YA：もー いーって いーって 勘弁して
 {笑} (YC：{笑}) だかーさー [だか
 らさ] {ささやくように} え あいの
 り誰だって
 130YC：トキオのでしょ
 131YA：トキオはナリユキ
 132YC：あ じゃ トキオじゃナリユキ やね
 133YA：今田とー
 134YC：今田とー

〔若一調〕

収録日時：2000年3月27日
 収録場所：大学構内
 話題：演習室 → ゼミ発表 → 新校舎と駐車場
 → 鹿児島名物料理 → アルバイト →
 住まい → 父親 → 就寝時刻 → (中断)
 → ゼミ合宿 → 録音消去 → ラーメン
 屋 → サークルと友達 → 承諾書

- 131YF：えーと 鹿児島に 来て (YA：はい)
 あの一 今日の夜ぐらいはおいしいもの
 でも食べよーと思ってるんですけど
 (YA：はい) どこ か おすすめのどこ
 ろって ありますか なんか
- 132YA：な なにが好きですか
- 133YF：なん なんでも なんか鹿児島に来た
 らこれってゆーの ありますか
- 134YA：来たならこれですか
- 135YF：んー 住んでるかたに そんな こん
 な の聞くのも変ですけど
- 136YA：あーー なんすかねー なんか で
 も (YF：うん) 福岡の {咳払い} (YF：
 うんうん) 友達のひとは (YF：うん) 鹿
 児島に遊びに来たとき (YF：えー) なん
 か 鹿児島の人 は 喰うのかわかんない
 すけど (YF：えー) なんか 鹿児島来た
 ら豚骨ってイメージがあったらしくてー
 (YF：あーあー) 豚骨がすっごーおいし
 かったって (YF：はー) いました
- 137YF：日頃食べるんですか
- 138YA：や 僕 食べたことないっすよ
- 139YF：{笑} んー あじゃやっぱりー 普通は
 家では 作ったりしない
- 140YA：んー 僕んちじゃ 作らないっす
 (YF：あー) んー 残念ながら (YF：
 うん) あと さつまあげがおいしくて
 ゆー人も (YF：あー) いるんすけどー
 (YF：うん) もー まったくおいしいと
 思わないんですよ {笑}
- 141YF：{笑} 何がお好きで
- 142YA：えっ 僕ですか (YF：えー) なんすか
 ねー 僕のバイト先 の (YF：えーえー)
 天井がめちゃくちゃおいしいですよ

- 143YF：あ 天井屋さんでやってる あ
- 144YA：いや お寿司屋なんですよけどー
 (YF：んー) なんか
- 145YF：あー 寿司屋のてんぷらっっておいしそ
 ー {笑} うん
- 146YA：はい んで なんか 丼ものとかも
 (YF：うん) やっててー (YF：うん) 結
 構おいしいんですけど (YF：ん) 今 旅
 行に行っって
- 147YF：{笑} あの
- 148YA：お マスターと おかみさんが
- 149YF：おかみさんが じゃー今閉まってるん
 ですよ
- 150YA：閉まってるー
- 151YF：残念
- 152YA：はい (YF：ふーん) 残念ながら
- 153YF：残念ながら
- 154YA：ここに出勤をもってこさせられたり
- 155YF：え ここに {笑}
- 156YA：はい ここ うん やつが == [人
 名] さんが (YF：{笑}) == [人名] さ
 さんが なんか == [店名] にでん =
 == [店名] ってゆーんですけど (YF：
 ええ) 電話して == [YA の名] 君い
 ますかっとかいって {笑} (YF：ええ)
 {笑いながら} 出前たのみたいんですけ
 ど 結構遠いんですよ ここまで
- 157YF：どれぐらい バイクで
- 158YA：ん バイクで でもまー 20分 もか
 かんないんですけどー (YF：うんうん)
 ま あの その店の 近辺 なんですよ
 基本的に (YF：あ はい) で 鹿大とか
 行って すごい遠いほーになって (YF：
 はい) しかもその日 すごく忙しくて
 (YF：はい) {笑} はい
- 159YF：{笑} この忙しいのにー
- 160YA：はい 鹿大まで行けっちゅー話やっ*
 話やって (YF：えー) ちよっと むかつ
 いたんですけどね
- 161YF：でも届けたんですか
- 162YA：はい
- 163YF：{笑いながら} あー おつか ごくろー
 さまでした